

## 剣道を習得することの意義

香川県

修猷館

中学3年 佐藤大宜

私と剣道との出会いは六年前の春だった。それは私が小四の時、当時小一の弟が習い始めた剣道の稽古を初めて道場に見学に行った時のことだ。気合の入った声や、竹刀のぶつかる音、緊張感のある試合稽古、見学だけのつもりがそのうちに、私も剣道をしてみたい、先生方に稽古をつけてもらいたい。そう思うようになり、迷わずその場で入門を決めた。後で知ることになるのだが、その道場には七段、八段の先生がたくさん在籍されており、その中には世界選手権に出場された先生もいらっしやった。

「剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨して旺盛なる気分を養い、剣道の特性を通じて礼節をとうとび、信義を重んじ誠を尽くして常に自己の修養に努め、以って国家社会を愛して、広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」

これは、剣道を学んでいる人なら一度は耳にしたことがあるだろう「剣道修錬の心構え」だ。剣道という武道において、試合の勝ち負け以上に大切なことは相手を敬う気持ち。試合に勝利してもガッツポーズすると反則を取られることから、剣道は敬意・礼儀を大切にす武道なのだということがわかる。

中学生最後の総体で私は大将を務めたが、県大会に進むことは出来なかった。だが、自分の持てる力を出し切ったからか悔いはなく終わった後はとても清々しい気さえした。もちろん悔しくないと言ったら嘘になるが私に勝った相手には、心から県大会で頑張ってほしいと心から思った。先生に「それが相手に敬意を持つということだ」と言われた時、少しでも剣道のことを理解できていたのかな、と嬉しく思ったものだ。

中三の秋になった今はもう試合はなく、重心が勉強にシフトしているが、勉強の中でも剣道で培った精神が生かされている。稽古では基礎をととても大切にするため、勉強も復習をしっかりとるようになった。また、自分の弱点を知り何が足りないかを自覚するというプロセスも勉強と同じだ。よく「文武両道」と言うが、これは「勉強とスポーツ、どちらも出来る」というより、「上達に大切なものが共通している、だから両方出来る」のではないだろうか。これに気がついてから実際、私の成績も良くなった。こういった面からも剣道をやっている良かったと思う。平成が令和になり、消費税が10%になるなど、様々な変化があるが、不変的で歴史のある剣道を知れば知る程、そんな世の中でも剣道の奥深さを痛感せずにはいられない。着装一つとってみても、袴の五本の折り目に「仁・義・礼・智・信」の意味があることを教わった時、鳥肌が立ったのを覚えている。また、八段を取得している先生でも、自身の鍛錬のために稽古する姿からも剣道にはそれだけの魅力があることがわかる。

剣道から学んだことは、私の人生をととても豊かなものにしてくれた。剣道に巡り合えたことに

は感謝しかない。剣道の理念、「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」これに習い、一生が修行であることを自覚し常に真剣に向きあって私も先生方のような尊敬される人物になれるようこれからも精進していこうと思う。

哲学者である森信三さんの言葉に「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える、しかも一瞬早すぎず一瞬遅すぎない時に」という名言がある。私にとってのそれはまさに道場に見学に行った時のことだった。ここから私の長い剣道人生が幕を上げた。